

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201297		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ2号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸2条2丁目5-20		
自己評価作成日	令和2年2月6日	評価結果市町村受理日	令和2年4月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170201297-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0170201297-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和2年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が「本人のペースで安心してゆっくり過ごせる様に、居室は広くベッド、洗面台、トイレ、消灯台、チェストを各居室に完備し、居室内の壁にはご家族や知人の方との写真、誕生会、行事の写真飾っている。利用者の居室入口の壁にも作品を飾り、見て頂く事により、喜びを感じて頂ける様に心掛けている。利用者の誕生会には、嗜好に合わせた行事食やケーキを提供し、他の利用者も職員も全員で誕生会を特別な日として大切にお祝いしている。また、誕生日の記念写真も毎年、撮影している。外出する機会を多く持ち、お花見、お弁当を持って公園へ外出。天気の良い日は畑作業や散歩、ウッドデッキに出て日光浴やティータイムをし、楽しく張り合いのある生活を送れるように取り組んでいる。週に一回の訪問看護と2週に一回の訪問診療の他、利用者の体調不良時には協力病院へ連絡し必要に応じて受診できる体制になっていて、利用者が安心して生活して頂ける様にしている。建物は、一階建てで、天井が高く、とても、開放感があり、圧迫感を感じさせない空間造りになっている。また、居室室内も、日当たりが良く明るい雰囲気である。年に一度、夏祭りを開催し、利用者家族や地域の方を招待し、一緒に楽しんで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟」は、札幌市郊外の自然豊かな住宅地に立地している1ユニットのグループホームである。居間や食堂は天窓のある明るく開放感のある造りで、広々とした廊下には、利用者が好きな場所でゆっくり寛げるように大きなソファを数か所に配置している。居室にはトイレや洗面台も備え付けられており、それぞれの利用者が自宅で生活するように落ち着いて過ごせる環境が整備されている。医療面では、同法人の医療機関が近隣にあり、定期的な往診や受診体制が整備されている。同法人のグループホームと連携して運営推進会議や身体拘束適正化委員会を実施し、協力体制を整えながらより良いサービスの提供にも努めている。昨年度新たに就任した管理者を中心に、全職員で一人ひとりの思いに寄り添い、笑顔の絶えない日々が送れるように温かな支援を行っている。また、管理者は職員の意見や提案を聞き取りながら運営やケアに活かすとともに、外部研修の参加意向を確認したりシフト調整などを行い働きやすい職場環境の整備にも取り組んでいる。利用者の高齢化に伴い外出も難しくなっているが、日々の散歩やウッドデッキでの外気浴、野菜の苗植えなどを利用者と一緒に行ったり、前田森林公園や百合が原公園などに外出行事として出かけて積極的に外気に触れる機会を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念は、壁に掲示し、会議などで年に一度確認する機会を設けている。施設独自のホーム目標があり、職員間で共有し、日々のサービス提供に努めている	法人共通施設理念の社会的緩和項目に、地域での生活や町内会との交流など地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。毎年、職員とともにユニット目標を作成しているが、年間を通して施設理念を確認する機会は少ない。	ユニット目標とともに施設理念を定期的に確認し、全職員で共有しながら更に実践につなげるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と散歩をしていると、近隣の子供達と挨拶を交わしたり、事業所で行う夏祭りには、地域住民の方々をご招待し交流を深めている。また、夏祭りに、近隣の小学校の児童が、来訪され、歌や踊り、けん玉の披露等、交流がある。	事業所の夏祭りに小学生が来訪し、歌やけん玉などを披露している。散歩で近隣住民と挨拶を交わすこともある。今後は積極的に町内会行事に参加し、地域住民との交流を増やしていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に高齢者の福祉施設が多いため、高齢者が一人で散歩をしている時には気をつけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、施設の現状報告、防火訓練の報告を行っている。また、研修会を行い、地域の方々と共に考える機会を設け、少しでも反映できるように取り組んでいる。	行政や地域役員などの参加を得て、同法人事業所合同で認知症や感染症予防などをテーマに開催している。全家族に会議案内を送付しているが参加がほとんどないため、今後は事前に意見を聞き取り、家族の意見も会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は市や区のグループホーム管理者連絡会に参加し情報を得ている。何か相談がある時には、統括管理者が行政と連絡し相談をしている。	法人の統括管理者が役所と連携しながら情報交換している。管理者が、書類などに関して役所に電話で確認することもある。区役所から研修情報を得て、職員が外部研修に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についてのマニュアルをもとに、禁止の対象となる具体的な行為をしないように、施設内研修や身体拘束委員会を開催し、職員間での意識を高めている。玄関は日中は施錠せずセンサーで対応し、夜間のみ施錠している。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、年2回勉強会を実施している。年1回法人合同の身体拘束適正化委員会を行い、ほか3回は職員が参加して事業所で開催している。身体拘束適正化委員会の議事録と身体拘束の勉強会資料を分かりやすく整理したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員に小冊子を配布、外部研修、施設内研修を行い虐待防止に努めている。声かけなどに注意し心理的な虐待の防止に努めている。入浴時や更衣の時など皮膚の変色の確認をしている。		

グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	諸制度についての相談などは管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に、施設利用についての説明をし、ご本人とご家族の不安や疑問点を確認している。契約時にも再度確認をし、契約書・重要事項説明書の説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や、電話連絡により、利用者の近況報告をした際に機会を設け、意見・要望を会議やミーティングで話し合い対応している。	管理者を中心に家族の来訪時や電話で意見や要望を聞き取り、連絡ノートや口頭で伝えている。今後は個別の写真と一緒に本人の様子を記載して、定期的に家族に送付したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	統括管理者が職員との個人面談を行い、意見などを聞く機会を設けている。管理者はミーティングや会議、連絡帳を活用し、日々の業務の改善、意見や提案を反映できるように取り組んでいる。	会議に参加できない職員の意見も事前に聞き取り、会議に反映させている。職員の提案を活かして業務の流れを変更することもある。職員は、行事や装飾などを分担しながら運営やケアに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の勤務状況などを把握し、統括管理者へ報告。管理者、職員は、毎年、自己申告書を提出し統括管理者は、職員と個人面談を行い勤務状況や希望などを確認し、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、外部研修、施設内研修など、より多くの職員が参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市・区のグループホーム管理者連絡会に参加し、情報交換や職員研修など、サービス向上の取り組みに参加している。法人内研修により、他施設との交流がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問時や見学時に、ご本人の不安なこと要望などを時間をかけて聞き、少しでも不安を軽減出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用をする前に、施設見学や自宅訪問を行い面談をしている。ご家族の不安や要望について確認し、施設利用に対する心配事を軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や自宅訪問時に得た情報などから、必要とされる支援を判断し、より良いサービスを利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生きがいや、やりがいを持って頂ける様に、家事作業、個々の能力、希望に応じた役割分担をしている。イベント等がある際は、共に作品作りを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、居室でゆっくりとした時間を過ごして頂き、ご本人の様子をお伝えしている。ご家族に電話連絡を行い、相談や近況報告し、協力を得て、ご本人を支えていけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人との外出や面会、電話連絡、手紙での交流が続けていけるように支援をしている。	利用者の高齢化に伴い友人や知人が来訪する機会は少なくなっているが、年賀状が届く方もいる。家族と一緒に馴染みの美容室に行ったり、法事や墓参りに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集まり利用者が参加できるゲームや体操を行い、利用者、職員も楽しめるように努めている。利用者同士が良好な関係になれるよう把握し、何かあればすぐに職員が間に入り対応している。		

グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に、契約が終了しても、必要に応じて相談等の対応に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報やフェイスシートを参考にして、本人からも希望や意向の聞き取り、把握に努めている。困難な場合であっても表情や仕草など、本人の意向をできる限り叶えられるようにしている。	会話や仕草、発語などから思いや意向を把握している。基本情報やフェイスシートを定期的に更新しているが、趣味や嗜好などの情報が十分とはいえない。	趣味や嗜好などの情報を具体的に記録に残して変化に応じて追記し、定期的に書類を更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族から、今までの生活歴や暮らし方、生活環境などの情報を頂き、利用していたサービス機関から情報を得て、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調の変化や状態を記録し、毎日朝と夕のミーティングにて情報を共有している。他に連絡帳の活用と、毎月一回の会議の中で利用者一人ひとりの現状を話し合い、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当ケアワーカーのモニタリングに基づき、定期的なカンファレンスを行い、問題点を検討し、3か月毎に見直しをしている。ご本人と家族の意向も反映できるように作成している。家族の面会時に要望を確認している。	家族の意向を事前に聞き取り、利用者担当職員を中心にサービス内容に沿って評価を行い3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録は介護計画を意識しながら記入し、変化があれば分かりやすいように印をつけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調の変化や状態を毎日、個別に記録し、連絡ノートを活用、ミーティングや会議にて職員と意見や情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院との訪問診療や受診、訪問看護との連携により、利用者の変化するニーズに合わせて、利用者が安心して生活ができる医療体制になっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などの外出や外食、美容室への外出、近隣の公園へ散歩、近隣の小学校との交流など、楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の前に、かかりつけ医をご本人とご家族に確認し選択して頂いている。協力病院の内科、精神科、皮膚科、歯科の往診と受診を受けられる体制になっている。その他の科は、施設対応やご家族のご協力を得て受診して頂く時もある。	定期的に協力医療機関による専門医の往診が実施されている。家族と外部へ受診する時は口頭で本人の状態を伝え、受診後に結果を確認して記録に残している。受診や往診の状況は「入居者情報(訪診等)」に記入している。	

グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回、訪問看護を受け利用者の状態を報告している。状態に何か変化があった時には、すぐに連絡をし、主治医の指示のもと医療機関に受診するなど、連絡体制が確保されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に医師、訪問看護師などの医療機関と連携をし、情報を共有している。体調が安定し退院の許可があれば、すぐに入居できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応に係る指針の説明と同意をご家族より得ている。 入院時には、ご家族と話し合いを行い、主治医、訪問看護師とよく相談し、今後の方向性を話し合い対応している。	利用開始時に、継続的に医療行為が必要になった場合などは対応が難しくなることを「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って説明している。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合い適切な対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時などのマニュアルをもとに、ミーティングや会議で確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定火災避難訓練を行っている。また、水害区域であることから、水害時の避難経路の確認や避難訓練もしている。備蓄品の確保や災害対策について話し合い取り組んでいる。地域との連携は、不十分である。	年2回、夜間の火災と水害を想定した避難訓練を行っているが、地域住民の参加や消防署の協力を得た訓練は近年実施していない。今後は地震時のケア別の対応についての話し合いを記録に残し、定期的に確認していきたいと考えている。	地域住民の参加を得た避難訓練を行い、地域との協力体制を確認するよう期待したい。また、定期的に消防署の協力を得た避難訓練を実施するよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人や他の利用者が不快な思いをしないように、表情や言動に十分注意し、接遇を意識した声かけを行っている。	名前は「さん」付けで呼んでいる。申し送りや記録などは、他者に分からないように別室で行っている。研修などを行い、言葉遣いに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞き取り、本人の意向に添えるように、言葉かけや対応をしている。理解困難な方でも、表情や仕草から思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事の補助を行ったり、ゆっくり新聞を読んだり、テレビを観る等、一人ひとりがしたいことを大切に、無理強いをしないように心かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度の散髪、外出時の洋服選びなど、ご本人の好みに合わせておしゃれができるようにしている。家族と美容室へ外出される方もいる。家族対応が難しい利用者には、化粧品購入代行を行っている。		

グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材と献立は委託業者に依頼し、利用者の嗜好に合わせた献立を委託業者と連携し提供している。利用者の能力によるが、盛り付けや食器の片付けを行っている。	調理は事業所で行い、時には利用者の希望を取り入れ食材を活かしてメニューを変更することもある。行事などでお弁当を注文して外出先で楽しんだり、夏にソフトクリームを食べに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食べられる量、盛り付け、形態を工夫している。水分は毎食事の他に、入浴後、午前午後のティータイム、レクリエーション後など水分補給、夏場の水分量の確保等、利用者の体調に応じて、水分補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、利用者の能力に応じて介助を行っている。必要時には、歯科往診をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄のパターンや行動、ご本人の状態に合わせて、トイレでの排泄介助をしている。	職員は個々の排泄パターンを把握して、その方に合った声かけや介助を行っている。行動などで把握してトイレに誘導することもある。おむつを使用している方は自室で交換している。利用者の尊厳に配慮した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の状況により、排便チェック表を利用し職員間で共有している。水分量は、記録に記入し把握。必要時に下剤や坐薬を使用にて排便コントロールに努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴となっている。個々に合わせた好みのお湯の温度調整、入浴剤を使用し、ゆっくり入浴ができるようにしている。また、日曜日以外の入浴対応になっているが、体調によっては、臨機応変に対応している。水曜日、土曜日は、午前と午後の入浴対応になっている。	週に2回の入浴は確保し、平日は午前中を中心に個々の希望に応じて時間や順番を決めている。座位が取れない方はシャワー浴で対応している。同性介助なども希望に応じて柔軟に対応している。入浴を拒む場合も、曜日や時間を変更するなど工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や生活習慣に合わせて、ベッドで昼寝をしたり、数か所に設置してあるソファでテレビや新聞を見て休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを常時確認できるようにファイルし、周知している。薬の変更があった時には、受診記録や連絡ノートに記載し、ミーティングで報告し全職員がわかるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の楽しみごとに合わせて、裁縫、カルタ、、トランプ、塗り絵、洗濯干し、散歩などをできるように支援している。		

グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事担当を決め、季節に合った、お花見、お弁当を持って公園へ出かけるなどしている。天気の良い日には、外に出て散歩、ウッドデッキでバーベキューをし、外気浴の機会を多くとれるようにしている。	事業所の周囲は自然が多くゆっくりできる環境で、車いすの方も一緒に散歩している。敷地内に花や野菜を植え、それを楽しんでいる。定期的な外出行事として百合が原公園、戸田記念公園の花見などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で、お金を管理している方もいるが、実際には使用していない。金銭管理は、ご家族対応とし、職員管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いたら、直接本人に渡している。ご家族への電話連絡も、いつでも対応できる支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下の壁には、利用者の絵画などの作品を掲示、季節感を取り入れた装飾を飾り、玄関には、利用者の写真を飾り、明るく居心地の良い空間を心かけている。	居間は広く、サンルームや窓も大きく天井が吹き抜けになっているので明るい空間になっている。食事テーブルの他にソファが2か所にあり、ゆったりと過ごせる造りになっている。壁には利用者の作品や行事の写真、季節ごとの装飾が掲示されている。温湿度計や加湿器を設置して、過ごしやすい環境に配慮している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングのソファを置き、いつでも、寛げるようになっている。利用者同士で会話をしたり、独りの時間を過ごすなど、思い思いの場所で過ごす事が出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人とご家族と相談をし、在宅で使った慣れたタンスやソファなどの家具、日用品を持ってこられ使用して頂いている。また、本人が、安心、安全に過ごせるような環境整備に努めている。	家族と相談しながら、利用者が入居前に使用していた家具や装飾品、応援している野球チームのグッズなどを持って来ている。仏壇を持って来ている方もいる。壁には家族の写真や行事の写真、好きな物を掲示している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが、自立した生活が送れるように、居室内での滑り止めの設置や伝え歩行ができる様に物の配置を工夫する等の支援を行っている。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム茨戸ふぁみりあ2号棟

作成日：令和 2年 4月 15日

市町村受理日：令和 2年 4月 20日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	年に1回、施設理念の確認やユニット目標を職員と共に、作成しているが、地域密着型を意識した話し合いが少ない。	ユニット目標及び施設理念を定期的に確認し、全職員で、共有し、地域密着型サービスの意識を高めていく。	施設理念及びユニット目標を職員会議で定期的に確認し地域密着型サービスの意識を職員間で高めていき、地域交流を多くしていく。	1年
2	23	基本情報やフェイスシートを定期的に更新しているが、趣味や嗜好などの情報が不十分である。	利用者個々の趣味や嗜好を探っていき、職員間で共有出来るように、書類作成を行う。	個々の趣味や嗜好の情報を探っていき、基本情報がフェイスシートへ追記し、書類更新を行う。	6ヶ月
3	35	年2回、夜間想定火災及び水害訓練を行っているが、地域住民や消防署の協力を得た訓練は近年実施していない。地震時のケア別の話し合いが、不十分である。	地域住民や消防署の協力を得た火災及び水害訓練を、定期的に実施する。	運営推進会議の際に、地域住民参加型の避難訓練を、企画して、実施に繋げる。また、消防署の協力を依頼する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。